

BUSINESS EYE



学校法人東洋学園理事長 江澤 雄一氏

東京都出身。東京大学法学部卒。大蔵省(現 財務省)国際金融局長等を経てUBS銀行グループ特別顧問。2003年4月より現職。2009年春の叙勲にて瑞宝中綬章を受章

企業にも人材を最大限に生かしてほしい

— そのようにして育成した人材を企業に送り出すわけですが。

江澤 人口減少時代に入った日本経済に活力をとり戻すためには、企業にとって人材をどう最大限に生かしていくかというのが、現在の重要なテーマだと思います。今の企業の人材採用については、新卒中心で終身雇用など画一的なところが感じられます。一人ひとり個性や能力が違いますから、それを把握したうえでそれぞれにふさわしい人材活用が必要だと思います。財界でも検討されているのですが、

3年間は新卒扱いにして、その間に留学するとか、ボランティア活動をするとか、新しい経験をしてそれから企業に入っていくのはどうかと。中途採用ももっと積極的に考えるべきでしょう。私は日本全体で、減少していく若い世代を金の卵と捉え、これを最大限に活用していくことを考えなければならなと思っています。

— 東日本大震災からの復興という経済プロセスのなかで、教育の重要性も高まっていると思いますが。

江澤 今まで経験したことのない大きな困難に直面するなかで、独自の発想で目標を設定して実現していくような、リーダーシップを

— 震災後の復興についてはどうお考えでしょうか。

江澤 まず被災地の復興に関しては、二元に戻すというのではなく、震災を契機に新しい地域開発をするといった発想が基本にあるべきだと思います。誰がリーダーになつて、どういった構想を描き、資金をどのように供給していくかといったビジョンが求められてくるでしょう。非常に困難が伴うとは思いますが、これまでの枠組みにとらわれないで、10年先、20年先、さらにもっと先を見据えた思い切ったプランが必要になってくるのではないのでしょうか。

— 復興のため、日本経済再生のために、何が必要でしょう。

江澤 経済の活性化のためには産

業構造が変化するなかでベンチャー企業などが持つ起業家精神がもっと発揮されなければならないと思っています。今日日本では若い人たちについても、社会全体についても、新しいものへの取り組み姿勢に弱いところがあります。既存の守旧的な考え方はなく、もっとリスクを恐れずにチャレンジしてほしいと思います。当然そのためには、企業が自由に活動できる規制緩和が依然として必要でしょう。

— 日本の存在感が低下しているといわれますが、今後の方向性についてはどうお考えでしょう。

江澤 世界における国の存在感というのは、経済規模だけで決まるものではなく、日本について言えば、民主主義国家としての社会の安定性は非常に重要だと思われ、長い歴史に裏付けられた日本文化の質の高さは海外から高く評価されています。今、国際関係でソフトパワーということの重要性が叫ばれていますが、日本は軍事力や経済力だけではなく、そうした国の安定や文化などで存在感や影響力を発揮して、世界全体の調和ある発展に貢献していけるのではないかと思います。そのためには、教育の果たす役割もますます重要になってくるでしょう。

自ら判断し行動できる真の国際人を育てる 個人の能力を最大限に生かすことが 教育にも経済再生にも不可欠

創立から85年の歴史を持ち、千葉県流山市と東京都心・本郷にキャンパスがある東洋学園大学は、一貫して自立できる社会人の育成を目指してきた。特に、国際社会で活躍し貢献できるよう、教養教育と英語教育に長く力を注いでいる。江澤雄一理事長に、人材育成や今後の日本経済などについて聞いた。



自立した「人間力」の育成に力を入れている

脈々と受け継がれてきた3つの教育理念

— 東洋学園の目指す大学像からお聞かせいただけますか。

江澤 東洋学園の建学は1926年、大正15年ですが、85年の歴史を考えてみまして、「時代の変化に適應する大学」「国際人を育てる大学」「面倒見のよい大学」という3つの柱が、脈々と生きているのではないかと思います。

— それぞれの趣旨についてお聞かせください。

江澤 まず「時代の変化に適應する」ということですが、世界は多極化、不安定化し、国内も少子高齢化や震災復興など課題が山積しています。

す。大学はそうした時代のニーズを敏感に反映して社会に貢献していくことが求められているということです。次の「国際人を育てる」というのは、グローバル化が進むなかで、ビジネスでも文化交流でもスポーツでもあらゆる分野で国際的な知見と「ミニニケーション能力」が必要であるということです。3つ目の「面倒見のよい大学」というのは、人は非常に多面的な能力を持っていますから、一人ひとりの個性を尊重してそれぞれの能力を最大限に発揮させる。そのために教職員と学生の距離が近いきめ細かな教育を行っています。

— 教養教育と英語教育を特に重視されていますね。

江澤 教養科目については多様なグループに分かれていて、人間理解、芸術理解や社会理解、世界理解、さらに現代の探究などのグループがあります。時代の変化が激しい時は今までの知識や経験だけでは対応できません。新しい状況に直面した時に自分で考え、判

断して行動することが求められます。「人間力」と言ってもよいのですが、刻々と変化する時代のなかで常に目標を見つけて行動できる能力を備えてほしいと思います。英語教育については長く力を注いでいて「英語の東洋」といわれることもあります。本学では英語教育開発センターを設けていて、習熟度に応じた独自の教育システムを実践しています。



東洋学園大学のシンボル、本郷キャンパスにあるフェニックス・モザイク「岩間がくれの蓮花」